



## ディレクター 大角 真子

### “究極に楽しい草野球” みたいなアートを

450 メートルの堤防と聞いた時は、ワクワクしましたね。大変だけど、やりがいのあるプロジェクトになるって。最初はもっとエッジの効いた作品がいいかなと思っていましたが、途中で方向性を変えました。アートとして尖ったものじゃなくて、絵が得意な人も苦手な人も、参加する人が「楽しい」「おもしろい」「好き！」って思えるものにしたかったんです。言ってみれば、“究極に楽しい草野球” みたいな感じ。

### 「蒲暦」に込めた想い

「蒲郡っていいまちだな」って感じてもらいたくて。72 の風景を描いてもらうって、すごく数が多いですね。細やかに蒲郡の魅力を表現できるし、参加者のごく私的な「私の好きなもの」を受け止められるんです。結果、人に教えたくなる小話がいっぱい集まりました。私も春にゆりかもめの頭が黒くなることを知って、いろいろな人にゆりかもめのヒミツについておしゃべりしちゃいました。

### 場の雰囲気作品に宿る

場の雰囲気って、絵に出ると思うんです。だからこそ、みんなが楽しくかける雰囲気づくりを大事にしました。描いている風景を見て「自分も描きたい」って声をかけてくれる人もいて、うれしかったですね。通りがかった漁師さんが「これ見ながら描きな」って本物の魚を持ってきてくれたことも。フレンドリーな人の多い、この地域ならではの出来事だなあって感じました。みんなが楽しそうに関わってくれたことが蒲暦の特徴です。

### 未来へつなぐアートに

仕上がりは想像以上！ぜひ蒲暦を見に何度も足を運んでもらいたいです。蒲暦のように「日々を味わう」や「隣の人の世界を教えよう」を意識すると、例え大変な日があっても楽しく乗り越えられるかも。今回参加した子どもたちが大人になってまた筆をとる 30 年後を想像した時に、描かれた風景や文化は未来に残ってほしいと思います。蒲郡の魅力を子どもたちにつないでいきたいですね。

公益社団法人 愛知建築士会 名古屋北支部が主催する建築コンクール「コードな建築」で優秀賞を受賞しました

